現代アートを軸とした地域の有形・無形の知財の発掘・活用

関連教員：太田純貴（多元地域文化コース・代表）、菅野康太（心理学コース）、酒井佑輔（地域社会コース）、農中至（地域社会コース）、清水香（教育学部）

現代アートの展覧会
「生きる私が表すことは。」
の総括に関するワークショップ開催

鹿児島と熊本の事例の比較を通した、地域とアート、まちづくりに関わるワークショップの開催

大学と地域人材との接続強化
：アート関係者との人的ネットワークの構築

鹿児島の知財の積極的な掘り起こし
：過去に開催された展覧会や芸術活動の発展的探索・活用

SDGsへの貢献
：ジェンダーについて考える端緒、質の高い教育の提供、まちづくりにアートを応用する視点の獲得

現代の側から、近代とのフックを構築

アートを補助線に、複数の事例を接続させる足場の構築

成果事例1：「生きる私が表すことは。」総括ワークショップ

「生きる私が表すことは。」
work shop

2022.10.21（金） 14:30~17:30

場所：法文棟３号館１階 103 号室

2021 年に「生きる私が表すことは。」と題された展覧会が開催されました。
開催された一年後の今、その展覧会の意図や仕掛けなどについて、
主宰したキュレーターや出展作家とともに、検討してみたいと思います。

登壇者
原田真紀（インディペンデント・キュレーター）
木浦奈津子（画家）
平川渚（美術作家）
さめしまことえ（美術作家）

聞き手・司会
太田純貴（鹿児島大学准教授）

＊本イベントは鹿児島大学 令和４年度地域マネジメント教育研究プロジェクト「現代アートを軸とした地域の有形・無形の知財の発掘・活用」などの助成を受けています。

speakers

〈原田真紀（はらだまき）〉
インディペンデント・キュレーター
1973年福岡生まれ、鹿児島在住。
田川市美術館ほか福岡県内の美術館勤務を経て、現在フリーで展覧会やアートイベントなどの企画運営をする。主な展覧会企画として、「"直観"のジオラマ」福岡市美術館（2014年/福岡）、「秋の種2019：七揃綾乃展　やまぬ潜熱を食んで」konya-garelly（2019年/福岡）、「秋の種2020：しまうちみか展　自立について」福岡アジア美術館（2020年/福岡）、「生きる私が表すことは。」長島美術館（2021年/鹿児島）、「ARE WE HAPPY?」zenzaiマージナルギャラリー（2022年/鹿児島）ほか。

〈木浦奈津子（きうらなつこ）〉
画家
身近な景色を中心に絵画を制作している。単純化した形と素早い筆致で描くことで、景色の一瞬の印象を抽出しようと試みている。主な展示歴として「Local Prospects 4 この隔たりを」三菱地所アルティアム（2018年/福岡）、第45回鹿児島市春の新人賞受賞（2019）、個展「うみとこうえんと」鹿児島市立美術館（2021年/鹿児島）、「VOCA展2022 現代美術の展望」上野の森美術館（2022年/東京）など。

〈平川渚（ひらかわなぎさ）〉
美術作家
1979年大分県生まれ、鹿児島県在住。
さまざまな地域に滞在し、固有の場所や土地から読み取った素材をもとに、かぎ針で糸を編む手法で既にそこにある見えないかたちを空間に立ち上がらせるインスタレーション作品を制作する。細部の集積でできた作品は多くの場合再現性を持たず、サイトスペシフィックな性質を持つ。また、人々から集めた古着や手編みの編み物を素材にもどし、それらが持つ個別の物語やモノの向こうにいる人々にアプローチしながら、ひとつの作品として再編する試みも行っている。

〈さめしまことえ〉
美術作家
1979 年静岡県生まれ。旧姓名・浦田琴恵。
2003 年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。桜島、横浜寿町、別府など各地のアートプロジェクトに参加する。閉館した温泉ホテルや、古い下宿アパートでの大規模なグループ展、九州のアートを訪ねる旅の企画など様々な活動を行う。2014 年に鹿児島で編集者の夫と出版社「燦燦舎」を立ち上げる。共著に『桜島!まるごと絵本』『西郷どん!まるごと絵本』他。『鹿児島偉人カルタ55』等では 最近の主な活動として2020 年 げいじゅつたいけん!　ワークショップ『みんなで箱にんげん!』かごしま文化芸術センターKCIC(鹿児島)など。

画像出典：１、撮影 / リアライズ：2〜4、各アーティストによる画像提供

鹿児島では現代アートはあまり盛んではないと言われてきました。そうした側面は事実である一方、地道に活動を行なってこられたインディペンデント・キュレーターやアーティストが存在します。このワークショップでは、そうした方々をお呼びし、2021年に開催された展覧会「生きる私が表すことは。」について、製作する側、企画運営・キュレーションする側、受容する側などさまざまな立場を交差させて、多角的な見地から総括を行うワークショップを開催しました。フライヤーは太田純貴ゼミの入木田楓さんが作成してくれました。

成果事例2：「現代アートと地域とまちづくり」ワークショップ

アートは、例えば美術館のなかだけに止まっているのでしょうか？今回のワークショップでは、熊本市現代美術館のキュレーター、鹿児島県内外でアートと広報やまちづくりに堅実かつ大胆に携わっておられる関係者を招いた、ワークショップを開催しました。アート自体の持つ力に批判的になりつつ、県や市の事例を比較しながら、参加者全員で討議を行いました。学内外から多数の参加者があり、さまざまな角度から知見を深める機会となりました。フライヤーは太田純貴ゼミの中島玲華さんが作成してくれました。

トークイベント

現代アートと
地域と
まちづくり

登壇者
佐々木 玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）
四元 朝子（サンカイ・プロダクションLLC 広報 / アートコーディネーター）
市村 良平（株式会社スタジオグッドフラット 企画・プロデューサー）
聞き手 / 司会
太田 純貴（鹿児島大学准教授）

昨今、アート関係のイベントやフェスティバルなど、「アート」を使って「地域にかかわること」やアートとまちづくりの関係を頻繁に目にするようになりました。このときアート・地域・まちづくりはどのような関係を結んでいるのでしょうか。また、紡ぎ出される関係によってどのような風景が立ち上がることになるのでしょうか。今回は鹿児島や熊本などにおいて、アート・地域・まちづくりに堅実かつ大胆、そして具体的に携わってこられた、3 名のゲストをお迎えします。ゲストの方々のお話を参考に、参加者全体で意見を交換する機会となれば幸いです。

/ 日時 /
2022年 12月9日（金）14:30〜17:40

/ 会場 /
鹿児島大学 法文棟３号館１階103号室

/ 申込方法 /
右のQRコードまたは下のリンクから事前申込が必要です。締切：12月7日（水）中
https://qr.paps.jp/lnKLn

アートは地域にどのように関わるのか。

登壇者紹介

※「トーク内容」は変更となる場合があります。

佐々木 玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）

福岡生まれ。2013 年より現職。2017 年、京都大学大学院修士課程修了（美学美術史学）。中国の現代美術を中心としてアジア圏の文化状況や歴史・社会に広く関心を持ち、また九州の同時代作家の調査と紹介にも力を入れる。近年の主な企画展示に「魔都の鼓動 上海現代アートシーンのダイナミズム」（熊本市現代美術館、2018）、「段々降りてゆく 九州の地に根を張る７組の表現者」（同上、2021）、「熊本市現代美術館開館 20 周年記念 Our Attitudes」（同上、2022）など。

トーク内容
・まちと美術館・地域に関わる企画の例
・芸術は「社会に貢献する」ことを目指すべきなのか

四元 朝子（サンカイ・プロダクションLLC 広報 / アートコーディネーター）

スパイラル（東京・表参道）の広報を経て 2002 年アヴィニヨン大学アーツマネジメント学科専門職過程編入、修士取得。メトロ（パリ地下鉄公団）デザインチーム リサーチャー、パレ・ド・トーキョーのキュレトリアルアシスタント。帰国後、フランス外務省主催のダンスフェスティバル「フランスダンス03」広報、山口情報芸術センター［YCAM］シアター部門企画制作。かこしま文化情報センター（KCIC）の企画制作／広報チーフ。2016年サンカイ・プロダクション合同会社設立。東京、山口、鹿児島で、アーティストや企画展、イベントの広報やマネジメントを行う。2019年6 月「アール・ブリュット」［白水社 著：エミール・シャンブノワ］を共訳。2021年９月〜 gallery HINGE（鹿児島市）を共同運営。

トーク内容
・アート／地域／ひとを軸にした仕事
・つくること、共有すること 〜事例をもとに〜

市村 良平（株式会社スタジオグッドフラット 企画・プロデューサー）

島根県生まれ。鹿児島大学大学院修了（建築学専攻）後、株式会社丸屋本社マルヤガーデンズ事業部、一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab を経て、かこしま文化情報センター（KCIC）、鹿屋市にぎわいづくり協議会タウンマネージャーなどを務めた。独立後は、中心市街地活性化・公共空間利活用・子育て支援・男女共同参画など社会課題の解決に向けた取り組みをサポートする事業を行う。2021年９月〜 gallery HINEG（鹿児島市）を共同運営。

トーク内容
・アートに関わったら怒られた話
・地域とアートをつないでみた実践事例
・地域づくりとアートの効能

/ 注意事項 /
・ワークショップへの参加に当たっては、マスクの着用をお願いします。
・駐車スペースは限られていますので、可能な限り公共の交通機関をご利用ください。
・会場へのアクセスは鹿児島大学法文学部の HP（https://kadai-houbun.jp/access-2/）をご参照ください。

/ 問い合わせ /
太田純貴研究室（yota@leh.kagoshima-u.ac.jp）

本イベントは鹿児島大学 令和４年度地域マネジメント教育研究プロジェクト「現代アートを軸とした地域の有形・無形の知財の発掘・活用」などの助成を受けています。

ワークショップの準備そして当日ご参加いただきました皆様に、特に登壇者の皆様に感謝申し上げます。